

総合政策学科

●学科の教育理念と教育目的

総合政策学科では、社会諸科学の基礎的な知識を修得しつつ、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行います。

さらに民間企業や公的機関、非営利組織などで働き、それぞれの場で発生する諸問題を実践的に解決することで社会に貢献できる人材の育成を目指します。

●学科のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 法学、政治学、経済学、経営学などの社会諸科学に関する基本的知識を有している。

<思考・判断>

2. 社会や組織の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。

<関心・意欲>

3. 社会や組織の諸課題を自らのこととして捉え、積極的な関心を持ち続けることができる。

<態度>

4. 自主的な学習を通じて、社会人として自覚を持ち責任を果たすことができる。

<技能・表現>

5. 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
6. 自らの思考・判断のプロセスを明確に説明することができる。

●学科のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

<知識・理解>

1. 国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科など、高等学校または中等教育学校で学習する範囲の知識を有し、それらの基本的内容を理解している。

<思考・判断>

2. 社会の諸問題をさまざまな立場から柔軟に考察し、自分の考えをまとめることができる。

<関心・意欲・態度>

3. 法や政治、経済や企業経営、地域や国際関係にかかわる諸問題のいずれかに関心を持ち、諸問題の構造と背景を考え、解決策を立案しようという意欲を有している。

4. 現実の諸問題を発見し理解するため、フィールドワークなどの現場実習に積極的に参加できる。
5. 入学後、さらには生涯にわたって学習し成長していこうという意欲を有している。

<技能・表現>

6. 自分が得た結論について、他者に対してわかりやすく説明でき、また文章にまとめることができる。
7. コミュニケーション能力を高めようと積極的に努力することができる

●学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針, カリキュラムの特徴・特色)

法文学部総合政策学科は、社会科学の様々な知識を活かしながら、複眼的視点から現代社会で生起している諸課題に積極的に向き合い、仲間とともに調べ、解決への道筋を考え、自ら考え抜いた結果を社会に還元することができ、自己管理することで自ら成長していける人材を育成していくといった教育理念・目的に基づき、多様化する社会や学生のニーズに対応すべく、様々な履修コースを置いています。

昼間主コースには、法律学を中心に法体系や法理論などを学ぶ司法コース、経営学を中心に企業の組織運営などを学ぶ企業システムコース、政治学・経済学を中心に公共政策などを学ぶ公共コースを設置しています。特別コースには、少人数教育を前提とした特別コースとして、国際的な視野と感覚を身につけるグローバル・スタディーズコース、地域活性化・地域づくりの在り方などを学ぶ地域(リージョナル・スタディ)コースを置いています。また、法文学部は学科横断のコースとして観光まちづくりコースを設置し、総合政策学科には、地域における観光資源の再発掘・再評価のあり方などを学ぶ観光まちづくりコース(観光政策系)が置かれています。これら6つの教育コースの選択は通常2回生からであり、社会諸科学の基礎を1年間じっくり学んだ後に、学生自身の興味・関心にいっそう合致した選択が可能となるよう配慮されています。

夜間主コースには、社会人のみならず多様なライフスタイルを尊重する学生ニーズに応えるべく総合コースを置き、社会科学全般をより幅広く学ぶことができるとともに、また専門に特化できるように科目配置されています。

それぞれの履修コースで、以下のような方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。

I. 総合政策学科の教育理念に基づいた人材育成を達成するために、専門教育科目を専門基礎科目・専門科目・自由選択の3区分とする。

1. 専門基礎科目には、広範な学問領域で多様な基礎的知識と基本的で汎用的な能力(・スキル)と複眼的視点を獲得できるよう、様々な入門科目を設置する。

2. 専門科目には、広範な学問領域での専門的な知識や方法論を体系的に学び、身につけて活用できるよう、基本科目・関連科目に分けて、それぞれ適切な科目を配置する。

①基本科目には、4つの広範な学問領域において、より特化した専門知識や方法論を学ぶ中心的な科目群(コア科目・選択必修科目等)を設置する。また、修得できた知識やスキルを統合し、

複眼的な視点から問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を育成するための演習科目を設置し、丁寧な個別指導を行う。さらに、主体的に学び、自己の学修成果を自己管理し、自ら成長していける能力を習得できるよう、フィールドワークなどの実践科目(体験科目)を配置する。

②関連科目には、複眼的視点から総合的に判断できる専門領域横断的な学びに応えるべく、他コースのコア科目を履修可能とする。

3. 自由選択は、専門的知識のみならず幅広い教養や見識(あるいは実践経験)を深めるべく、専門科目・共通教育科目や他大学他学部科目のみならず、自己確立とキャリア探究の基礎を構築するためのインターンシップ科目などを配置する。

Ⅱ. これらのカリキュラムを履修するにあたっては、多様な学生や社会のニーズに応えるべく、より専門に特化した履修設計や、特定の専門領域を超えて幅広い学際的な学びを優先した履修設計を可能とする。